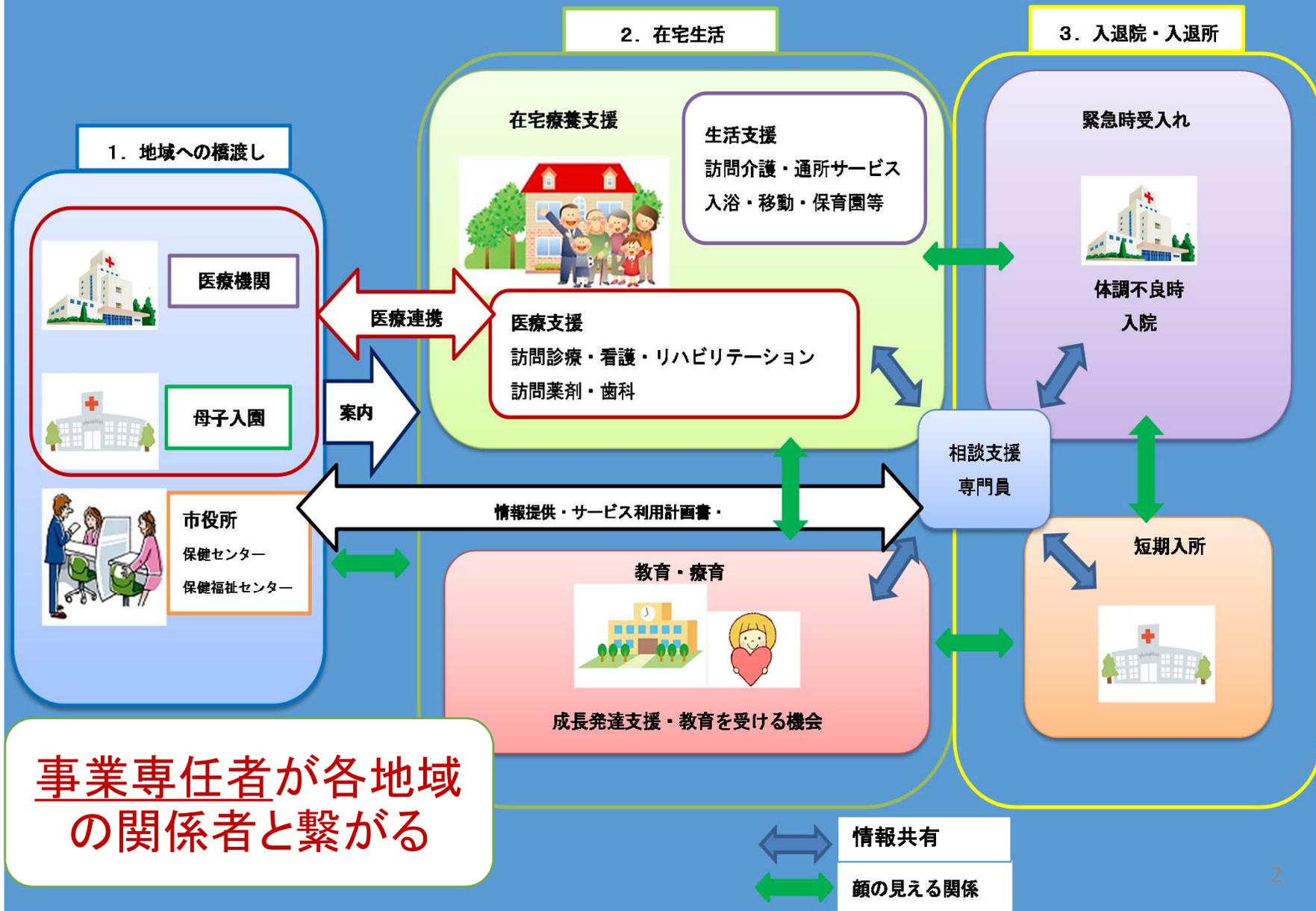


平成26年度 小児等在宅医療 連携拠点事業報告

千葉県障害福祉課
医療法人社団麒麟会
事業専任者 谷口 由紀子

県内全域で安心して暮らせる地域づくり

小児在宅における核となるネットワーク



平成26年度事業実施・結果

病診連携

1. 開催場所：千葉県立こども病院
座長：医師会推薦小児科医
開業医（内科・小児科）・重心施設こども病院・新生児科

人材育成（研修）

1. 訪問看護師
2. 相談支援専門員・・・40名
3. 特定の者への喀痰吸引研修
基本研修修了者118名

関係機関・者間の連携促進

1. 市町村障害福祉課会議
10市町村参加、3回/年開催
2. 地域別多職種事例検討会
県内6箇所：参加者数80名
3. 教育（特別支援学校）
8月：参加者数80名

患者・家族の個別支援

1. Q&A冊子の広報
2. 相談支援専門員の役割
シンポジウム：参加者50名
3. 個別相談
20件/年

訪問看護人材育成事業結果・成果

1. 出前研修(5回シリーズ 2時間/回)・・・6箇所で開催

座学:フィジカルアセスメント・成長発達支援・家族看護
事例検討

演習:全身ストレッチ・フェイスマッサージ

2. 集合研修

1)千葉県看護協会・・・参加者数80名

目的:小児に対する訪問看護師の役割認識の向上

2)千葉リハビリテーションセンター・・・参加者数60名

目的:小児訪問看護基本の理解

3)千葉県立こども病院・・・参加者数68名

目的:超重症児に対する基礎的看護の視点の理解

戦略的な訪問看護師人材育成の必要性

2. 指導者(原理原則に基づいた看護の実践)

0歳からの超重症児及び15点以下の子どもへの対応

リスクマネジメント・ケアマネジメント・コーチングスキル

看護管理・学習支援者の役割の理解・協働的パートナーシップの理解

3. ステーション管理者(看護全体のモニタリング)

事業全体のリスク管理・サービス提供体制

看護プロセスの管理、組織間の連携方法・組織環境の整備等

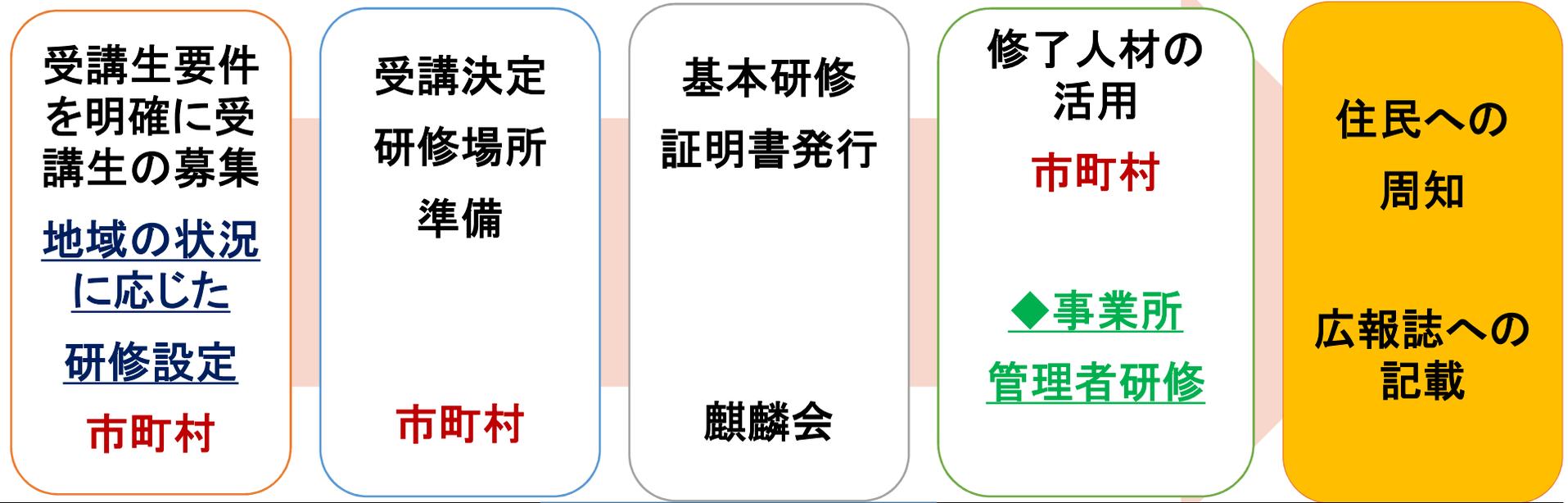
1. 訪問看護師(出前研修)

小児訪問看護の役割認識・基礎的知識の獲得

フィジカルアセスメント力・成長発達・家族看護理論

地域との連携方法・事例検討

市町村との協働による人材育成事業



行政の変化

1. 各地域の状況を把握・理解する機会
2. 当該地域の状況に応じた社会資源の創出の検討
3. サービス活用に向けた行政と多職種との連携

実地研修(36件)からサービス提供へ
(柏・木更津・長生・千葉市)
対象:障害児29件者4件 高齢者7件



相談支援専門員の育成

人材の発掘

- ・県内の相談支援事業所を対象としたアンケートの実施
約500箇所配布
回答140名

役割認識を高める

研修……80名

- ・相談支援の必要性と期待される役割
- ・事例を活用した実際の支援方法

専門研修……40名

- ・家族を捉える視点
- ・各職種の役割
- ・医療・保健制度
- ・成長発達
- ・医療との連携方法
- ・支援の実際

相談支援のための環境整備

- ◆つながろう会の開催
- ◆役割に対する当事者団体への周知
- ◆ガイドラインの活用(医療機関への提示)

各地域で可能な 地域興し・サービスの創出方法

◆**コンサルテーション**
サービスの創出
当事者のニーズと
支援環境の調整

在宅で必要な人材の育成事業

- ◆訪問看護師(出前研修)
- ◆相談支援専門員(行政職も)
- ◆医療的ケアのできる福祉職

利用者のニーズに合わせた
チームケアの提供



地域がつながる顔の見える
関係の構築

- ◆ワールドカフェ(地域の課題や未来を語り合う)
- ◆多職種事例検討会(チームケアのシミュレーション)

次年度からの取り組み

県内の関係者の関係構築の場づくり

◆行政との
連携会議

◆各地域
の実践の
発表の場

視点の
共有

人材育成

訪問看護師

相談支援専門員

医療的ケアのできる福祉職

集合研修

ガイドラインの活用

特定の者への喀痰吸引研修

チームケアコンサルテーション事業

千葉県障害福祉課

障害児等支援在宅医療・訪問看護研究会

療育支援専門部会

医療的ケアのある子ども・家族への相談支援の課題

1. 超重症児・準超重症児と家族

◆相談支援: 相談支援専門員・訪問看護師の協働

2. 重症児スコア15点以下で疾患を持ち、哺乳や成長発達に養育者が不安・ストレスを感じる家族

◆相談支援: 小児慢性特定疾患受給者 保健師

◆相談支援: 制度対象外の子どもの場合 市町村

3. NICU退院後の超低出生体重児及び低出生体重児

◆相談支援: 市町村保健師